

池原 昭治の

# さやまの糸本

第 102 話

## 伝承あそび・たこあげ



揚げられています。昔の子ども達は自分で竹を切り、紙を張り、絵を描き、大変苦労して作った手作りたこであそびました。

「たこ、たこ、あがれ、天まであがれ、風吹け、風吹け、大だこ、あーげるぞ」

冷たい北風なんてなんのその、子ども達は、ほつぺを真っ赤にして走ります。

また、「大だこ、小だこ、うなりだこ！糸がからんで、けんかだこ！」と元氣よくたこ揚げ唄をうたいながら、空たかく、たこを舞い上がらせます。

ちなみに関西では、たこのことを「いか」といいます。

「昔は、堀兼や水野あたりの畑とか、不老川の土手なんかで、よくたこあげをしたもんだべえ！」と、子どもたちの懐かしむ声がきこえてきます。そろそろ木枯らしの吹くころともなり、たこあげ遊びの季節がやってきます。

たこは、もともと「祝い唄」と申しまして、子どもの健康を願ったり、豊作の吉凶を占ったりしたものだと言われていました。今では西洋だこもよく



わかるかな？

### 今月の写真クイズ



写真は、今月の広報さやまの中に掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名の方に記念品を差し上げます。官製はがきで、広報課宛お送りください。

締め切り11月30日(当日消印有効)



【10月10日号の写真クイズの答え】

表紙の堀兼中学校の体育祭の写真でした。

### 表紙の写真

下奥富の亀井神社の近くに、地域の方が作った広いコスモス畑があります。この畑は4,500㎡の休耕田を利用したもので、約10万本もの花が10月中旬から11月上旬まで大勢の方の目を楽しませてくれます。

この日は汗ばむほどの陽気の中、幼稚園児が満開のコスモス畑を訪れ、「お花のじゅうたんみたい」「おにごっこしようよ」と自分の背丈ほどもある、コスモス畑の小道を花のような笑顔で駆け回りました。



埼玉県生態系保護協会狭山支部  
高橋昇さん(中新田)

### タゲリ

(チドリ目チドリ科)

後頭部に反り返った冠のような長い羽を持ち、背中や翼の上面は光沢のある黒緑色で光が当たると緑や紫に輝きます。腹部が白く、胸に帯のある、全長約30cmの大型のチドリ類の鳥です。翼は先端

が丸く、飛ぶと翼の下面に白黒の模様が出ます。ユーラシアの温帯から亜寒帯にかけて繁殖し、日本には主に冬鳥として少数が渡来します。国内では、数羽から数十羽の群れで生活し、湿田や川岸に棲息します。主に昆虫、ミミズ、貝などの動物性の餌をとりませんが、草の実を食べることもあります。警戒心が強く、近づくと「ミュー、ミュー」と鳴きながら舞い上がり、フワフワと飛びます。市内では、まれに奥富地区の田んぼで見ることができます。